

令和3年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会 議事録

日時：令和3年6月10日（木）10:00～11:00

場所：WEB開催

1. 開 会

事務局より研究評価委員会委員及び国総研職員の紹介
国土技術政策総合研究所 所長挨拶

2. 委員長の選任

委員会設置規則第3条2項に基づき、委員による互選を行い、委員長は角委員に決定した。

3. 分科会部会主査の指名

分科会設置規則第4条第2項に基づき、分科会第一、二、三部会の主査について、それぞれ古
関委員、伊香賀委員、兵藤委員が委員長より指名された。

4. 今年度以降の国土技術政策総合研究所研究評価委員会について

国総研より、資料について説明。

【質疑応答】（●：委員側発言 ○：国総研側発言）

- 今、政府はデジタル・トランスフォーメーション（以下、DXとする）とカーボンニュートラルを推進している。その中で、評価基準について機関運営および技術開発の両面において今後考慮する必要があるのではないかと考える。
- 先般、閣議決定した社会資本整備重点計画においても、国交省の今後の方針として、その2点を追加で新たな目標として掲げたところである。

まず、DXについて、国総研全体として横断的に連携して研究を進めるために、所長をトップに全研究部が参画するインフラDX研究推進本部という横断組織を国総研の中に設置したところである。また、建設分野のDXを対象とし、国総研の敷地内に建設DX実験フィールド、また、BIM/CIMなど3次元モデルを用いた建設分野の取組みを促進するためのデータセンターなどの整備を進めているところである。DXについては、民間機関を巻き込みつつ、研究開発の一つの大きな

柱として取り組んでいきたい。

また、カーボンニュートラルについて、具体的な取組はこれからであるが、既に国総研内に横断組織である環境研究推進本部があるので、こちらを活用して取り組んでいきたい。

- 先行的な取組についてはうまくアピールしていただくと良いと考える。

- カーボンニュートラルについては、例えば、河川工学やダム関係では、洪水対策だけでなく、その水を使ってどのように発電をしていくか、つまり、水力発電と治水をどのように調和させるかという研究テーマが今後重要になる。
国総研では多様な分野を扱っているため、カーボンニュートラルに貢献できることも多様にあると考える。是非連携しながら取り組んでいただきたい。

- 今年度、分科会で審議する個別研究課題の課題数はどの程度か。
- 事前評価を4課題、補正予算の意見交換を6課題、終了時評価を11課題の計21課題についてご審議いただく予定である。

5. 閉 会

国土技術政策総合研究所 所長挨拶